

次期学習指導要領 1枚まとめ｜中学校

家庭 中学校

領域を5つに再編し、中学校では独立した教科に

10秒でいうと

技術・家庭科から「家庭科」が独立した教科に。金銭管理と消費者の権利を新B領域で統合

中学校では、技術・家庭科が「情報・技術科」（仮称）と「家庭科」に分かれ、家庭科が独立した教科になる方向です。領域は小・高と同じ5つに再編する方向です。新しいB領域では、金銭の管理と消費者の権利をまとめて学ぶ方向です。住生活では、家全体の中で危険を見付けて対策を考える学習を丁寧に行う方向です。高齢者との関わり方なども充実させる方向です。

1 家庭科が独立した教科に

今の技術・家庭科は、免許や担当教員は別なのに、評定は一つの教科として付けています。このデメリットが大きいとして、家庭科を独立の教科とする方向が示されました。そのため、家庭科として新しい目標を検討する必要があるとされています。 P74 P223

授業では 技術分野の先生と、評定や年間計画の分け方を話し合い、家庭科だけの指導計画の案を作っておく準備が考えられます。

2 お金と消費を新しいB領域でまとめて学ぶ

今の「金銭の管理と購入」と「消費者の権利と責任」を、新しいB領域にまとめる方向です。消費と環境を一体的に学ぶねらいです。高校で扱っていた「生活の営みに必要な金銭」や「生活時間」も中学校に移す方向です。キャッシュレス化への対応なども、発達段階をふまえて扱います。 P227 P231

授業では スマートフォン決済の便利さとリスクを比べ、1か月のこづかい計画を立てて見直す、といった授業が考えられます。

3 住生活は家全体で危険を見付けて対策

中学校の住生活では、間取り図なども使って住まいの空間構成をとらえる方向です。そのうえで、家全体の中で危険を見付けて対策を考え、家庭で実践する一連の学習を丁寧に行います。「家庭内の事故の防ぎ方」は、高校で重点的に学ぶ方向です。 P232

授業では 教材用の間取り図を使って、つまずきや転倒の危険がある場所に印をつけて対策を考え、その考えを家庭で家族と話し合う、といった授業が考えられます。自分の家を扱うときは、間取りを提出・共有させない配慮が必要です。

4 社会の変化に合わせた内容の充実

地域の高齢者が増えていることをふまえ、認知機能などの低下や、状況に応じた関わり方を中学校・高校で扱う方向です。食文化など生活文化の継承を重視する学習も、中学校・高校で扱います。衣服の再利用は、衣服のライフサイクルを考えた選択・活用の一つとして扱う方向です。 P231 P232

授業では 地域の高齢者の方の話を聞き、聞こえにくさなどに配慮した話し方を考えて交流する、といった授業が考えられます。

ほかにも変わること（中学校）

- 中学校：技術・家庭科から「家庭科」を独立させる方向 P74 P223
- 領域をA～Eの5つに再編（「家庭総合」はFを加えて6つ） P225 P230 P231
- 内容の移管・統合：住まいの働きや家庭内事故は高校へ、金銭管理は中学校へ P226 P227 P232
- 布を用いた製作・衣服の再利用の扱いを整理 P226 P232
- 社会の変化に合わせて充実する内容（高齢者・健康・お金・生活文化） P225 P231 P232
- 評価：「学びに向かう力」は「見取る姿」で個人内評価、「思・判・表」に「○」 P233

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。